

地震発災時の自助及び救急車適正利用啓発 懸垂幕の設置

松戸市消防局 中央消防署

松戸市中央消防署は松戸市防火・防災協会中央支部が作成した懸垂幕を設置した。

懸垂幕の片面では『地震だ 自身を守れ!』と大きな文字で自助を呼びかけている。自助による救助割合は約70%と多数であり、継続的に啓発する必要がある。

もう片面では救急出場件数の増加傾向が続いているため『その救急車・本当に必要ですか? 救える命を救いたい』と救急車の適正利用を訴えている。昨年の搬送者全体の約4割が軽症者(外来診療のみ)であったことを消防署の前を通行する市民に広くアピールしている。



駐日ポーランド大使館次席が消防体験!

東京消防庁小金井消防署

2月14日、小金井市内在住の方の紹介で、駐日ポーランド大使館のラドスワフ・ティシュキェヴィッチ次席が来署されました。ティシュキェヴィッチ次席は、大学で日本語を学んだ大変な親日家で、日本とポーランドの国際親善に非常に貢献していただいている方です。次席は防火衣装着やはしご車の乗車などを体験され、署員の車両・各種装備説明も熱心に聞かれていました。最後は署員とはしご車の前で記念撮影をして署員との交流を深めました。ティシュキェヴィッチ次席が帰る際、「とても貴重で有意義な体験ができました。これからも小金井市民のために頑張ってください。」と流暢な日本語で激励のお言葉をいただきました。



消防通信 望楼 ぼうろう

山岳救助訓練を実施

豊川市消防本部

豊川市消防署では、12月19日(木)20日(金)に豊川市手取山公園内において、山岳救助訓練を実施した。管内には、標高789mの本宮山をはじめ、多数の低山が存在し、過去に山岳遭難事故も発生している。訓練は、事前に要救助者の位置を知らせないブラインド型の訓練で、実際に要救助者を捜索し、発見後は救助活動及び搬送活動を実施した。

可搬型GPSの使用方法や捜索、搬送要領を確認しながら訓練を実施した。また、各隊間の連携の重要性を再認識することも出来た。



要救助者を観察中



訓練開始前の様子

文化財防火デーに伴う消防訓練を実施

茨木市消防本部

茨木市消防本部では文化財防火デーを迎えるにあたり、1月24日に茨木市宿川原町にある国指定史跡の郡山宿本陣(通称:椿の本陣)で消防訓練を行った。

訓練は、「郡山宿本陣南側から出火し、北側に延焼拡大中」との想定で行われ、消防車両7台、出場隊員21名が本番さながらの訓練を行った。

訓練は市民の文化財愛護に関する意識を高めるため、また文化財の防災体制の整備や防災対策の強化を再認識するために市内の文化財施設を対象に毎年実施している。



初期消火



隊員放水